

和歌山特集 明友産業

明友産業は今年 3 月で創業 70 周年を迎えた工業化学品メーカーで、パラトルエンスルホン酸 (P T S A) をメインに製造販売する。拠点である和歌山工場では環境配慮を第一にモノづくりを進めるとともに、新しい明友産業に向けた動きも始まっている。

P T S A は芳香族スルホン酸の一種で、洗剤原料や触媒、硬化剤、医農薬原料など多種多様な用途を持つ。品質や安定供給の観点から海外品に比べると国内品が優勢の状態である。

国内では同社を含め 2 社のみがプレイヤー。同社では粉体、水溶液、溶剤ブレンドなど用途に合わせた製品を揃えている。

注力するのが P T S A 70% の水溶液「M T 70」で、17 年に社運をかけて開発した。プロセスにより廃液が出ない環境面に配慮した製品であるのが特徴だ。ユーザー評価も進み、現在は水溶液タイプ製造の 8 割を「M T 70」が占めている。「当時は無理をしてまで開発する必要性がないという意見もあったが、殻を破るための必要なプロセスであり挑戦。その決断が今につながった」(西口忠晴工場長) と振り返る。今後は水溶液以外の製品についても“環境対応”へ研究開発を進めるといふ。

環境対応では今年 4 月から工場内の電力を再生可能エネルギー由来に切り替え早速、電力ベースの C O 2 排出量半減を実現している。

課題だった老朽化設備も刷新に乗り出している。「M T 70」用の製造棟建設を先駆けとし、20 年には平屋だった倉庫をラック倉庫に一新、収容能力を倍増した。

今後は若い社員によるプロジェクトのもとリニューアルを進めていく計画だ。

一方で今回のコロナ禍では他業種に渡って原料の安定供給に対する不安などが浮き彫りとなったが、「安定供給の面からも、ニーズに即応できる体制整備へ情報収集や管理を徹底していく」(同) 方針。

